KUROKAWA

緑風

Vol.26
Nov 2020

すべては地域のみなさまのために
公立黒川病院だより
発行：公立黒川病院　地域連携室

巻頭言：非凡なる平凡

公立黒川病院 管理者　角田　浩

国木田独歩に「非凡なる凡人」なる小説がある。登場する「桂　正作」に関しての記載は以下の通りである。

「桂　正作のごときは平凡なる社会がつねに産出しうる人物である、また平凡なる社会がつねに要求する人物である。であるから桂のような人物が一人殖（ふ）えればそれだけ社会が幸福なのである。僕の桂に感心するのはこの意味においてである。また僕が桂をば非凡なる凡人と評するのもこのゆえである。（中略）彼はずいぶん少年にありがちな空想を描くけれども、計画を立ててこれを実行する上については少年の時から今日に至るまで、すこしも変わらず、一定の順序を立てて一歩一歩と着々実行してついに目的どおりに成就するのである。（中略）正作は（弟の）五郎のために、所々奔走してあるいは商店に入れ、あるいは学僕としたけれど、五郎はいたるところで失敗し、いたるところを逃げだしてしまう。けれども正作は根気よく世話をしていたが、ついに五郎を自分のそばに置き、種々に訓戒を加え、西国立志編を繰返して読まし、そして工手学校に入れてしまった。わずかの給料でみずから食らい、弟を養い、三年の間、辛苦に辛苦を重ねた結果は三十四年に至って現われ、五郎は技手となって今は東京の某会社に雇われ、まじめに勤労しているのである。」

つまり凡人「桂　正作」は目標を立てて必ずこれを成就し、失敗続きの弟も立派に更生させているのである。

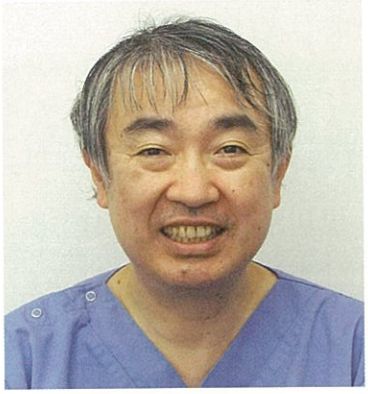
翻って地域医療の現場を考えると平凡なことの積み重ねでなりたっていると思われる。きちんと診断し、丁寧にその説明を行い、本人、家族と方針について十分に話し合い、治療を行う。誠に平凡なことである。院内では垣根を作らず、いかなる職種間でも無用な遠慮なく、意見を言い合い、チームとして常に患者さんのために統一した思いでサービスを行う。誠に凡庸なことである。地域においては都市の大病院とも近隣のクリニックとも常に密な顔の見える連携を行い、現実的な対応を双方の納得の上で行い、結果として患者さんの納得、喜びに結びつける。これもまたありきたりの話である。

しかし、しかしである。この平凡なことをなすのにいかに非凡なる努力を必要とするか。第一線の皆様は誰もが感じておられるのではないかと思われる。一見平凡な地域医療充実のために日々、非凡と思われるほどの努力を病院全体として続けていく決心である。これにより「社会が幸福」になるものと信じている。

就任のご挨拶

◆写真撮影のため、マスクを外しております

管理者　角田　浩　医師



Chanceは今

とはいえ、コロナの時代である。ニューノーマルという言葉も生まれた。

一見平凡な「正しいこと」も頻繁に変わる。マスクの評価はその最たるものだろう。

プライマリ・ケアの一つの中心である気道症状の対応にたいへんな労力を割かねばならない日々である。現場は疲弊し、先を考える余裕もない時代ではある。

Chance is nowhere

前に進むなんのチャンスも見いだせない気分にもなる。

現代最高の宮大工の一人に小川三夫氏という方がおられる。法隆寺専属の宮大工、西岡常一氏の唯一の内弟子であり、法隆寺三重塔、薬師寺金堂、薬師寺西塔（三重塔）再建他で活躍された方である。

その小川氏がこう語る。

「薬師寺の東塔に入ったら、ほんま不揃いな木ばっかりだ。それでも力強いんだな。あれも不揃いの良さや。外側はちゃんと整っているが、裏では不揃いが総持ちで支えているっているのは、やはり最高のものだろうな」と。

当院スタッフは出自様々な医師団をはじめ、あらゆるスタッフの今までの経歴はまったくいろいろである。しかも玉石混交ではない。多士済々である。

仙台と大崎の中間に位置し、大病院から離れ、しかも陸の孤島ではない当地の地域医療ならではの環境と思われる。また近隣の病医院の先生方も多様で豊かな経験をお持ちと思われる。

ぜひぜひに連携を強化し、つながっていなかった関係をつなぎ、弱かった連携を強化し、一旦切れかかった接続を再接続したい。

管理者拝命し、最初に思ったのはこのことである。

コロナ時代だからこそ、情報共有、地域連携が必要である。

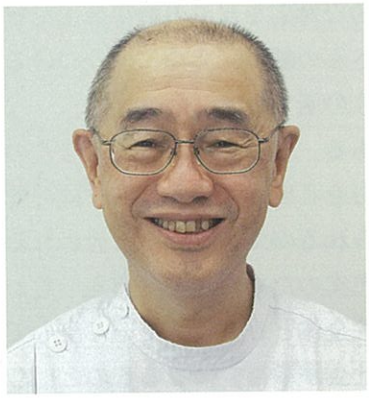
地域の先生方には伏して連携をお願いしたい。

そしてこの地域の医療が薬師寺東塔のような美しくも力強いものにしていきたい。

Chance is now here.

ここにこそ今こそ、当地医療の発展があると思うのである。

副管理者　横道　弘直　医師



この度思いがけず副管理者を拝命し、再度、病院管理に携わることとなりました。

先が見えないコロナ禍の中、皆様も大変な日々をお過ごしのことと思います。当院も、地域の皆様に必要とされる医療・介護を維持・提供するにはどうすればよいのか、試行錯誤を繰り返す悪戦苦闘の日々です。この危機的状況を乗り切るためには、院内のすべての力を集結する必要があります。これまでも私たちは、震災や水害など様々な困難を、院内の様々な職種が連携することによって乗り越えてきました。

「すべては地域の皆様のために」

この病院理念を羅針盤として、すべての職種・職員が同じ方向を向き、それぞれが果たすべき役割を果たす。そのためには、多職種による連携がどうしても必要です。黒川病院ではコロナを乗り越え、良質が医療を提供するための多職種チームが次々と立ち上っています。私自身も、連携を構築するため、最後の御奉公のつもりで、微力ながら尽力したいと考えております。

どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

副管理者　南家　俊介　医師

皆様、いつもお世話になっております。私はこの６月に公立黒川病院病院長代行から副管理者に肩書が変更になりました。残念ながら実のところ、職務の差がよくわかっておりませんが、これまでと同様に黒川病院が地域医療のために活躍できるよう、調整を行っていきたいと考えております。皆様、これまでと同じようにお付き合い頂ければ幸いです。

私は職務として黒川病院の今後の在り方を常に考えなければならないのですが、ここのところ、宮城県内はあちこちで地域医療構想の玉突き現象が起こっておりどう転ぶのか予断を許さない状況です。県南と登米に続き仙台でも病院の統合連携の話が出ております。黒川地域に影響が波及する可能性も十分にあり、行方を注視しているところです。

とはいえ当院の規模では近隣の大きな病院とは積極的に役割分担を行い、地域に根差した黒川病院としての役割を果たしていくより他に選択肢はありえません。むしろ当院と全く規模と役割の異なる病院が近くにできるかもしれないことは心強いことです。私自身は地域住民としても病院職員としてもこの話を歓迎しております。

また、コロナ禍が世界を大混乱に陥れてからもうすぐ１年になります。未だ終息の兆しはなく、人類社会に定着することも十分ありうる状況になっています。医療介護の世界も大混乱ですが、社会経済の混乱が力による世界秩序の再編に結び付くことは歴史上珍しくなく、本日の米大統領選挙の結果を注視しております。今回のコロナ禍で医療のサプライチェーンも世界規模になっていることを痛感し、世界情勢の行方も病院運営に無縁ではないと思い知らされました。急な事態にも対応できるよう、震災後から物資の備蓄を行っておりましたが、今後も継続して緊急時にも十分に活動できるように備えていきたいと思います。

今後も皆様と協力しながら地域医療の充実をはかるよう努力していきますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

看護部長　大黒　なか子

2020年10月から公立黒川病院の看護部長に就任いたしました。

黒川病院看護部では、病院理念の『すべては地域の皆様のために』に則り、地域を支える病院であることを一番大切に考え、笑顔で患者さんの思いに寄り添える看護部を目指しています。看護師の教育目標に、「いつ、どこでも、限られた資源の中で、自ら考え行動する看護師」とあり、病院から在宅まで、様々な部署で働く看護師に対して、どの場面においても、一人ひとりの成長を大切にし、働き甲斐のある明るい職場風土を定着させたいと考えております。

当院の入院病棟は、一般急性期、地域包括ケア、回復期リハビリがあり、地域の皆様が安心して入院生活を送れる体制を整えています。また、地域の皆様が安心してご自宅で過ごせるように外来部門や訪問看護ステーションにおいても看護師が積極的に取り組んでおります。これからも地域に根ざし、地域住民の皆様に必要とされる病院、看護部であるよう努力していきたいと思っております。

当院をご利用される皆様が、心地よく感じられる医療機関でありますよう、多職種、他医療機関と連携し、更に信頼関係を深めて参りたいと存じます。

どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。

お気軽にお問合せやご相談を頂きますようお待ちしております。

医療技術部長　久家　直巳

医療技術部長で理学療法士の久家（くげ）と申します。拝命してから早６年となりました。今年７月から角田管理者のもと新体制がスタートし、心機一転、医療技術部でも新しい病院づくりに貢献してまいりたいと考えております。医療技術部は６つの部門からなります。薬剤室、放射線室、臨床検査室、栄養室、医療社会事業課、リハビリテーション室です。いずれもそれぞれの資格を持った専門職の集団であり、分野も異なりますが、同じ環境下にいる者同士、お互いを尊重し合う習慣があります。私がこの任を続けられているのも、部門を越えた暖かい結びつきがあるからだと思っています。

今年は未曾有の試練に見舞われた年であり、現在もその只中にあります。COVID19は病院にとって、また地域にとって計り知れない脅威であり、それに立ち向かうには、お互いの信頼と協力、そして強力なリーダーシップが欠かせないものであると思います。当院では管理者・副管理者のもと、先生方、看護部、事務部、全職員体制で取り組んでいます。医療技術部も感染予防を怠ることなく、部門ごとに何ができるか、何をすべきかを日々考え、業務にあたっております。

これからも、地域住民の皆様に質の高い医療・介護を提供できるよう、医療技術部として邁進していきたいと考えております。今後とも、ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

事務部長　田波　雄大

はじめまして、７月に事務部長を拝命した田波と申します。

前任は本部企画調査部にて新規開設の企画調整などを行っていました。

今年度は、千葉県の診療所と山形県の診療所を開設する事となり、公立黒川病院に赴任する迄は千葉の診療所開設に携わってきました。

今年は各医療機関にとってコロナ対応の年かと思いますが、終息の目途は遠く、第３波が来るというニュースが聞こえ始め、まだまだご苦労の絶えない事かと思います。

公立黒川病院も地域医療振興協会が平成17年４月から運営を始めて15年目の節目となります。北海道ならび東北６県の施設も運営当初は公立黒川病院を含めて３施設でしたが、先の山形で開設した施設を含めると現在は８施設となります。

医療情勢の変化、人口減少、高齢化そして感染や災害など医療機関を取り巻く環境は、年々増しており、公立黒川病院も毎年厳しい舵取りが求められています。

そんな状況ではありますが、地域の大切な病院を守るべく近隣医療機関の皆様と連携しながら運営に努めて参りたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願致します。

着任のご挨拶

◆写真撮影のため、マスクを外しております

内科医師　森下　城

令和２年８月１日より、内科科長として着任いたしました森下　城（もりした　じょう）と申します。平成11年、信州大学を卒業し、東京大学医学部附属病院、ＪＲ東京総合病院にて２年間研修後、心身医学を志して東北大学心療内科に入局いたしました。岩手県立北上病院消化器内科に勤務し主に内視鏡をメインに消化器科一般の研修後、大学に戻り過敏性腸症候群の治療を主として心身医療全般を行っていました。博士号を取得し、東北大学大学院行動医学分野で研究員として過敏性腸症候群を軸に脳腸相関の研究をしていました。いずれは一般内科臨床医になることを希望していましたところ、御縁がありまして加美町の佐々木胃腸科に赴任いたしました。消化器疾患のみならず、生活習慣病や、認知症などの高齢者医療、まれに０歳児の診療などもあり、行政も含めた地域医療全般に関わって参りました。また加美郡医師会にて定期的に地元の先生方や医療従事者の皆様との交流を深める機会を得てとても楽しい時間を過ごさせていただきました。今回もまた御縁があり公立黒川病院に勤務することになり心より感謝し光栄に思っております。

私は神奈川県の藤沢市出身で、東北には特に縁はなかったのですが、東北に来て20年になりました。その間、医局に所属して東北中をめぐり、多くの友人、知人が出来まして、今は東北にいることが自分にとって自然なことと感じています。この場所で臨床医として勤務できることを非常に嬉しく思っています。久しぶりの病棟勤務でありますし、開業医から病院勤務への異動という事もあり、慣れない点が多々ありご迷惑をおかけすると思います。先生方、スタッフの皆様方のご指導ご鞭撻を頂きながら、地域医療に貢献出来るように地道に努力していきたいと思っております。またこの地で多くの友人・知人が出来れば良いなと願っています。何とぞよろしくお願い申し上げます。

内科医師　上原　周悟

令和２年７月20日より公立黒川病院・内科に赴任いたしました上原周悟と申します。離島・へき地医療に従事すべく、家庭医療を基盤とした包括的な医療を現在勉強中のところです。出身は沖縄県ですが、平成27年～平成30年に塩釜市の坂総合病院に勤務しておりました。その後は女川町地域医療センターにも半年ほど勤務した経験もあり、この度宮城県の地域医療に再び貢献できることを大変意義深いものと感じております。

前任地の沖縄県久米島にある公立久米島病院でもそうでしたが、特に内科というジャンルに縛られず、地域が求めている医療に対応してきた、というのが私の略歴です。内科としての外来・入院管理はもちろん、救急医療・訪問診療・健診・嘱託医・リハビリ・研修医教育にも携わって参りました。専門医が不在の環境ばかりでしたので、外傷やマイナーエマージェンシーに接する機会も数多くありました。時には尖閣諸島沖を航行中の漁船がはるばる４時間かけて来島受診し、夜間１人でサメ刺傷の対応をしたこと等は、今となっては貴重な経験です。

また、在宅医療に関しては医学生の頃より大変興味があったため、赴任する先々で率先して行っておりました。黒川郡地域においても訪問診療のニーズが高いとお聞きしておりますので、当院の横道弘直先生や筒井美穂先生を始め、在宅医療に関わる全てのスタッフと協力してそのニーズに応えることが出来たらと考えております。そして、坂総合病院リハ

ビリテーション科では、藤原大先生より脳卒中後の上下肢痙縮に対するボツリヌス治療（ボトックス治療）を学ばせて頂く機会がありました。そのため、前任地久米島でもボツリヌス治療を積極的に行っておりました。どの地域でもニーズがある疾患ですので、是非黒川地域でもそのような患者様の治療ができたらと思っております。注射と同時に入院リハビリテーションを併用すると効果が高いと言われておりますので、上下肢痙縮にお困りの患者様がおられましたら、是非当院にご紹介して頂けますと幸いです。

まだまだCOVID-19が猛威を振るっており、加えて暑さも厳しい今夏ではありますが、皆様と共にこの地域医療を支えていく所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策

感染症対策室　師長　伊藤　公恵

世界中を脅かす『新型コロナウイルス感染症』は、日本中でも感染が拡大し、宮城県内でも感染者が1000人を超えました。コロナ禍が社会を襲ってから早くも約１年となります。確実なワクチンや治療薬はない一方で感染者は増加傾向を示していることから、医療現場は逼迫しています。一説によれば、「すでに多くの日本人は免疫を獲得しているので新型コロナウイルスを恐れる必要はない」と言われていますが、どうなのでしょうか？

これからの季節は、さらにインフルエンザも流行します。様々な感染症の拡大を防ぐために医療機関では適切な対応が求められます。そこで『新型コロナウイルス感染症』を例に、当院の感染対策を紹介いたします。

当院は、『新型コロナウイルス感染症』に対し組織的にコロナ委員会を立ち上げ、週１回会議を行い対策について検討を重ねています。また、感染防止対策加算２を算定しておりICT（インフェクションコントロールチーム）が中心となり、週１回院内をラウンドしています。そこで指摘事項があれば指摘し、各部署から改善策を求めるように活動をしています。

感染防止は、感染が成立する連鎖を断ち切ることが大前提となります。標準予防策を徹底したうえで、感染経路予防策を行います。なかでも手指衛生については、WHOが提唱する５つのタイミングの徹底に心がけ、ICTラウンド時に口頭質問を行い、さらにはランダムに手指衛生の適切なタイミング遵守状況確認の直接観察を行っています。

『新型コロナウイルス感染症』は、飛沫感染と接触感染が主流であり、正面玄関ではサージカルマスクとフェースシールドを装着して患者のトリアージを行っています。発熱がある患者はもちろん風邪症状（鼻汁、咳、痰、咽頭痛など）のある患者は、原則入館させず発熱者対応とし、空間分離（一般の患者と交差せず、診察室も別な場所で行う）を徹底しています。そして前記の症状がある患者は、抗原検査を全例実施しています。抗原検査実施時は、フルPPE（個人防護具）で対応しています。PPEの着脱に関しては、可能な限り立ち合い人を設定して確実な防護となるように注意しています。また、発熱患者からの問い合わせがあった場合には時間分離診察（午後に来院していただく）も行っています。外来診療の中で疑似症が発生した場合には、保健所の指示のもと診療を進めています。しかし、当院は陰圧装備がなく今後整備予定です。入院患者の面会は、県内で１症例目が確認された以降、禁止としています。入院患者のストレス軽減のため、オンライン面会を８月から行い、患者・家族ともに好評です。そして入院患者の荷物の受け渡しについては、週１回のみと限定しています。そして、手術を受ける全患者に対しては、７月から抗原検査を実施しています。また、環境整備の面において『新型コロナウイルス』は、ステンレスやプラスチックの上で最大３日、紙製材では24時間生存可能であることにより、患者または職員の高頻度接触面は、１日２回以上アルコールクロスで清拭清掃を行っています。職員の行動指針については、コロナ会議でその都度協議検討を重ね自身の体調管理をはじめ、プライベート行動の自粛を求めています。

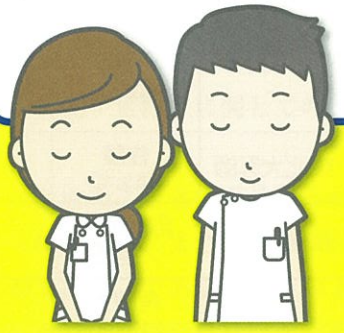
感染症はいつどこから蔓延するかわかりません。

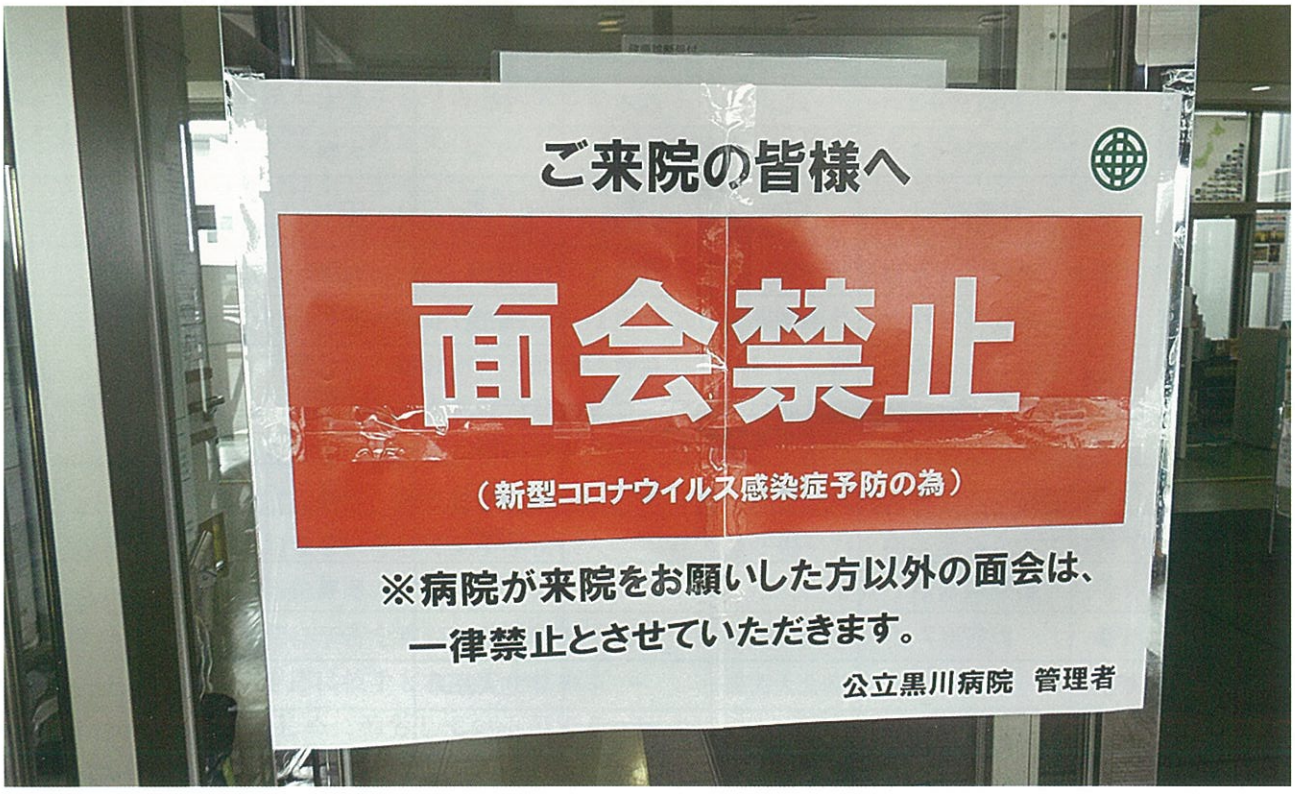
この『新型コロナウイルス』禍を脱出するためにも、私たち一人ひとりの正しい知識と正しい行動が重要な鍵となります。今後も院内感染症拡大の防止に尽力していきたいと思います。

患者さんへのお願い

新型コロナウイルス感染症が流行しております。院内感染防止のため、当院では患者さん、職員ともに**発熱、咳、痰、鼻汁、咽頭痛、倦怠感、味覚障害、臭覚障害**などの症状がある方には**新型コロナウイルス抗原検査**を実施しております。何卒ご理解の上ご協力をお願い致します。

公立黒川病院　管理者





外来診療予定表

令和２年11月１日現在

・毎月最初の来院の際は、会計時に総合受付へ保険証の提示をお願いします。
・受付時間：平日8：00～11：30、13：30～16：00（診療科によって異なる場合があります。）
　　：土曜8：30～11：30
・土曜午後・日曜・祝祭日は、全科休診です。
・整形外科は予約の患者さんまたは診療情報提供書を持参された方のみの診察になります。
・**入院患者さんの急変や、医師の出張等により変更になる場合もありますので、院内掲示板等でご確認ください。**

診療科		診察室	月	火	水	木	金	土
内　科	午前	診察室１（内科／心療内科）	金澤［東北大］	筒井	本郷［応援医師］	金澤［東北大］	本郷［応援医師］	応援医師
		診察室２（内科／循環器科）	森下	南家	応援医師	応援医師	南家	－
		診察室３（内科）	角田	横道	角田	角田	横道	－
		診察室４（内科／呼吸器科）	－	－	応援医師	－	東北大医師	－
		診察室６（内科）	松尾	森下	松尾	上原	松尾	－
		診察室８（内科）	－	植田［応援医師］	－	－	森下	－
	午後		横道・上原	植田［応援医師］	応援医師	東北大医師	佐藤［東北大］	－
消化器内視鏡	午前		応援医師	角田	応援医師	松尾／森下	応援医師／角田	－
	午後		応援医師	角田	応援医師	－	角田／応援医師	－
心エコー	午後		－	南家	南家	－	－	－
外　科	午前	診察室 12	東北大医師	東北大医師	東北大医師	東北大医師	東北大医師	－
		診察室 13	武山	松本	武山	松本	武山	－
		診察室 14	大槻	大槻	大槻	大槻	大槻	－
整形外科	午前	診察室 11	田中	森［東北大］	千葉［東北大］	田中	田中	－
婦人科	午前		相良	相良	相良	相良	相良	－
	午後		相良	相良	相良	－	相良	－
耳鼻咽喉科	午前		－	佐竹［応援医師］	－	佐竹［応援医師］	佐竹［応援医師］	－
	午後		東北大医師	－	－	東北大医師	－	－
泌尿器科	午前		田口	田口	田口	田口	田口	－
	午後		田口	－	田口	－	田口	－
小児科	午前	診察室７	岩城	岩城	岩城	岩城	岩城	－
	午後	診察室７	岩城	岩城	岩城	－	岩城	－
眼　科	午前		東北大医師	－	東北大医師	－	－	－
皮膚科	午後		－	富田［応援医師］	－	－	富田［応援医師］	－